花が黄色で1年生の小さな草である。

17. *Phtheirospermum tenuisectum* は四川，雲南から知られている種類で，ヒマラヤからは初めてのものである。前者に似て花は黄色であるが，多年生で，草地でなくがけの斜面にはえている。

18. *Veronica emodi* は ヒメクワガタ (*V. nipponica*) や エゾヒメクワガタ (*V. stelleri*) が属す Alpinae 群のものである。この群はクワガタソウ属の中では原始的な性質をもつ一群で，北半球に点点と隔離分布している。ヒマラヤには西パキスタンの *V. lasiocarpa* と本種の2種が知られる。

19. *Wulfenia* は，ヨーロッパアルプスに1種，西ヒマラヤに2種知られる小さな属で，クガイソウ属 (*Veronicastrum*) に近いものである。ロックガーデンの植草の一つとして，日本でも *W. carinthiaca* が時にみられることがある。最近北アメリカの *Synthyris* もこの属としてあつかう人があるが，両者は種子の形，染色体の基本数など全くことなる別のものである。ネパールからは今までこの属のものは知られていなかった。ヒマラヤのこの属を研究した Pennell (1943) は，ネパールにもいずれ見つかるであろうと予告していたとおり，1967年のヒマラヤ調査で，カトマンズ近郊のゴダワリでかなりの個体を発見し，1969年の調査でもゴサインクンドで採集した。そう珍らしいものでもなさそうなので，今まで採集されなかったのは不思議である。

Explanation of Plate IX

Upper. *Lindenbergia bhutanica*. Bhutan, Phuntsholing. Photo. by T. Yamazaki. Lower. *Wulfenia nepalensis*. Nepal, Phulchauki. Photo. by H. Hara,

---

○ヨモギの方言フツの語源に就いて (浅野正義) Masayoshi ASANO: The etymology of Japanese name for *Artemisia vulgaris* L. var. *indica* Maxim.

ヨモギを九州地方でフツと呼んでいる。古い言葉が残っていると云う沖縄ではフーチバと言っている。フーチバのバは葉であり，フーチとは風知で頂部にある灸の穴(ツボ)の名である。風邪や頭痛に風知の穴をよく使うので風知なる語が灸を意味するようになり，灸もぐさ，ついにはヨモギの代名詞となったと想像される。従ってフーチが後世なまってフツとなったと考えられる。

なお飯沼慾斉の草木図説(木部)を見るとセンニンソウにもフツクサの名が載っていて民間で広くセンニンソウの葉を灸の代用に使っていたことが分る。即ちセンニンソウ フツクサ「原野に多き蔓草にして衆よく通知し往々以て外傳し泡を発して諸患を治することあるもの也」(原文のまま) 上の記載でもフツなる語は灸に関係していることは明白である。ハマヨモギに対するフクドの別名もまた恐らくフーチ，フッチ，フッド，フクドという風に関連しているであろう。 (文京区[redacted])